

単元名 ゲーム(ボールゲーム)的当てゲーム

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 簡単なボール操作と攻めや守りやの動きによって、易しいゲームをすることができる。
 (2) 簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動遊びに進んで取り組み、規則を守り、誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

01100103_001

【準備等】ドッジボール，ミニソフトバレーボール，ビーチボール，段ボール箱，カラーコーン，ハードル
 対戦表 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 的当てゲームのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★友達と仲よく的当てゲームを楽しもう。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○1人でボールを使って遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・上に投げて捕る。 ・ボールをつく(ドリブル)。 ・転がしたボールを追いかけて捕る。 ・回転してボールを捕る。 ・ボールをつきながらジャンプする。 ・的当て(箱，カラーコーン)をする。 ・的通し(ハードル)をする。など <p>2 ボールを使って遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1人でボールを使って遊ぶ。 ○2人以上でボールを使って遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・2人組で対人パス(下からのパス，上からのパス，弾んだパス) ・守りをつけて的当てなど ○反省し，まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと ・できたことなど <p>3～5 簡単なルールで友達と仲よく的当てゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○チームを作る。 ○チームでボールを使って遊ぶ。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール，マナー，対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。(活用) ○反省し，練習をする。 ○第2ゲームをする。(活用) ○反省し，まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール，マナー，課題，作戦など ○第5時は，単元のまとめもする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールやマナーを守って，友達と仲よく的当てゲームをすることを知らせる。 ・ドッジボールの他にビーチボールやミニソフトバレーボールなど，いろいろなボールを用意する。 ・始めは教師が遊び方を紹介する。 ・教師が示した遊び方を変えたり，友達の遊び方をまねたりして工夫させる。 ・面白い遊び方をしている児童を紹介したり，その遊びを全員で行ったりして楽しく活動させる。 ・いろいろな投げ方をさせる。 <p>【評】楽しくボール遊びを行う活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1チーム4～6人，男女混合で編成する。 ・第1時～第2時に行った遊びをチームで選んで行わせる。 ・いろいろなチームと対戦することを知らせる ・慣れてきたら的を守る人をつける。 <ルールの例> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールはドッジボール。 ・ボールはグループで1～2個使う。 ・的は点数を付けたカラーコーン，ダンボールの箱など。 ・円の中に的を置き，たくさん点数をとった方が勝ち。 ・課題や作戦を考えられないチームには，話し合いに教師が加わって助言する。 <p>【評】チームの話し合いを通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの結果から，チームの課題に沿った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 <p>【評】ゲームを通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームでの話し合いや自己評価などをさせる

【備 考】

的当てゲームは，ボールを転がしたり，投げたりして的に当てるゲームである。1年生の児童は，投力がしっかり身に付いていない。また，ボールを怖がる児童もいる。そこで，的当てゲームを行うことにより，ボールを力いっぱい投げる経験をさせたり，ボールにたくさん触れさせたりして，ボールに対する恐怖心をなくす。展開例では，ボールを使って遊ぶことで基本的な技能を身に付ける。そして，その技能を使って簡単なルールで行う的当てゲームにつなげる。

<運動遊びが苦手な児童への配慮>

- ・柔らかいボールや，空気を少し抜いた速さの出にくいボールを用いる。
- ・柔らかいボールを用い，1対1でゴールを守る練習をしさせる。